

令和元年度第6回安城市地域ケア推進会議

日時 令和元年10月17日(木)
午後1時30分～午後3時
場所 社会福社会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

本日は15時から口腔ケア研修会があるので早めに終了します。

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進のための研修会実施報告(資料1)
小規模多機能部会)

資料1の通り説明。

研修会の参加者、アンケート回収率、意見、感想等は資料1の通り。

意見・質問

なし

会長)

小規模多機能部会は途中から立ち上がりこの会議に参加していただいている。どのような施設なのかこれからも周知が必要ですので、今後もよろしくお願いします。

(2) 認知症高齢者のひとり歩きに対する支援について(資料2)
事務局)

昨年12月に認知症高齢者がひとり歩きをして行方不明になった。その方は見つかるつながるネットワークに登録しており家族からの依頼で安心安全メールやFAXで検索依頼をした。その情報を見た桜井の小川町内会や民生委員が早く見つかるようにと検索に協力してくださったが、その経過において問題点がいくつか明らかになった。

そこで行方不明高齢者の地域での検索に対する問題点やその後の対応策について、桜井地区の取り組みを共有することで今後に活かせたらと思う。

地域支援部会)

【事例の説明】

資料2-1の通り

【課題】

- ①親族の説明が不明確だった(突然のことで焦ってしまった)
- ②検索協力依頼時と終了時に誰が誰に連絡するのかが不明確だった(事前の準備不足)
- ③発見や手掛かりの情報のまとめを誰がするかが不明確だった(連絡体制ができて

いなかった)。

【結果】

小川町内会で行方不明時の捜索協力連絡体制を整えた。

【対策】

- ①今回の件を基に作成した「捜索協力体制図」を有効活用して非常時の連絡ルートを周知徹底する。
- ②日頃の地域住民同士の見守り活動を通して日中独居の高齢者の変化に気づく。

保健福祉部会)

桜井地区内は介護保険事業所数が少ないため地域外や市外の事業所を利用して
いる現状から、桜井地区の地域ケア地区会議は、医療、介護、地域の専門職を主体
とした地域ケア地区会議（通称さくらんぼネット）を開催している。

6月のさくらんぼネットでは「行方不明になった方が自分の近所の方や関わって
いる利用者だったらあなたはどうしますか」「自分の町内の方が行方不明になった
と知ったらどのように連絡を取り合いますか」をテーマに検討した。

このテーマを取り上げたきっかけは、地域支援部会から紹介があった認知症高齢
者の行方不明の事例で、そこから出た課題を地域と専門職で検討し今後を活かした
かった。

【さくらんぼネットのグループワークで出た意見】

○見つかるつながるネットワークについて

- ・見つかるつながるネットワークを知らなかった。

→周知したい。

○連絡体制について

- ・連絡体制を活用できるように見直しを図りたい。
- ・連絡体制を考える良い機会となった。

○専門職の意見

- ・見つかるつながるネットワークのFAX写真が見にくい。
- ・行方不明になるおそれがある場合は事前に個別会議で連絡体制を共有しておく。

【地域課題】

- ・中学校区を超えた近隣の町内との連絡体制や情報共有などの協力体制をとれるよ
うにする。
- ・見つかるつながるネットワークの写真の流し方、医療機関や調剤薬局への情報提供
の不備。

意見・質問

地域支援部会)

町内会の組織の活用方法について、先日の台風19号襲来時、鹿乗川が増水した。
注意水位を超えたので12町内会長全てにメールしたところ、町内会長の80%、

町内役員の70%から返信があったので情報共有ができたと実感した。
携帯のLINEなどの活用方法を考えることは有効である。

デイネット部会)

認知症を家族が受け入れられず病院を受診させないことがある。認知症をポジティブなイメージで市が支えてほしい。行方不明になって無事に見つかるのは家族がポジティブな場合が多い。

住まい部会)

連絡体制の平常時と非常時の切り替えについて、非常時は情報発信する人が関係する全員に同時に発信した方が良い。ピラミッド式の連絡体制は途中でトラブルがあると先に繋がらないので非常時には機能しにくい。

会長)

見つかるつながるネットワークの情報の送り先は具体的にどこか。

事務局)

介護保険事業所、公民館、消防署、新聞店など直接客と関わりがあるところに発信している。

会長)

病院、歯科医院にも情報を流すと効果が見込まれると思うが、調剤薬局は色々な人が出入りするが協力いただけるか。

薬剤師会部会)

掲示しても良ければ掲示して協力したい。本人がフラッと立ち寄るかもしれない。

地域支援係長)

- ・皆様に協力いただければありがたい。
- ・FAXの画質は、互いの性能により、FAXを使用する限り改善されない。
- ・安全安心メールを、それぞれが登録していただければ鮮明な画像を送信できる。
- ・携帯のLINEなら読んでいない人がすぐに分かるので良いかと思う。

会長)

病院、歯科医院のご意見をお伺いしたい。

歯科医師会部会)

歯科医師会会長にメールしてもらえれば会員全員に周知できる。

会長)

そもそも病院などの医療系の機関が見つかるつながるネットワークの情報提供先から除外されている理由があるならば教えて欲しい。

地域支援係長)

詳細は不明である。

会長)

情報発信について、3医師会に依頼をしてもらえれば、対応できると思う。

在宅医療サポートセンター)

厚生労働省の調査では行方不明になってから発見までの期間で生存率が変わる。当日→約80%、翌日→約60%、3～4日目→約20%、5日目以降→0%。いかに初動で躊躇なく発見体制を作るかが生存率を上げるためには大切である。家族がこの段階で捜索の依頼を出して良いものか躊躇することがロスタイムに繋がるので、登録時にこの辺りを家族に了承していただくことが大切。

地域支援部会)

最近の事例で、家族が行方不明になっていることを周知、公表してくれなくて良いと言われたことがあったので、ケアマネジャーから家族に見つかるつながるネットワークの利用やその有効性を説明していただけると良い。

会長)

さくらんぼネットとはどのような取り組みか。

保健福祉部会)

桜井地区は介護施設が少ないため横の繋がりを持つための組織で地域ケア地区会議のひとつ。専門職を中心に、内容によっては民生委員、福祉委員、町内会のメンバーが参加することもある。

地域支援係長)

桜井地区の取り組みはとても良いことだと思う。見つかるつながるネットワークや安全安心メールに登録してもなかなか自分ごととして考えられないが、地元の力は重要なので桜井地区の取組みを横に展開できると良い。

(3) 高齢者等実態調査を利用したアンケートについて (資料3)

地域支援係長)

資料3を説明。

- ・ここにある追加項目以外は容量の関係で入れられなかったがご了承いただきたい。
- ・アンケートの発送は12月、結果は令和2年3月には出る。
- ・アンケート項目は10月31日のあんジョイプラン策定委員会で最終決定する。

会長)

発送件数と回答数はどれくらいを見込んでいるか。

地域支援係長)

一般高齢者：発送2000件、回答率50%
介護保険認定者：発送4000件、回答率50%
一般市民：発送2000件、回答率50%

病院部会)

対象者にガン末期の人は含まれるか。

地域支援係長)

介護保険認定者のうち在宅の人はその可能性がある。

病院部会)

資料3④「あなたの死が近い場合に・・・」とあるが、ガン末期の人(死が近い人)でもっと治療を頑張ろうと思っている人が「死」という言葉を聞いたら侵襲的に感じるのではと懸念している。例えば「人生の最終段階」という表現に置き換えてみるのはどうか。

ケアマネット部会)

ガン末期の人は意外と多い。事業所の特性はあるが現在5人担当している。

地域支援係長)

「死」を「人生の最終段階」に改める。

地域支援部会)

40歳から64歳を一般市民としているが幅を広げてはどうか。同時期に行われる障害福祉のアンケートでは一般市民は障害者と同じ数に送付することになっている。一般市民の幅を広げることで、例えば「ACPという言葉はどこかで聞いたことがある」だけでも高齢者や高齢社会に対する認識が様々な年代に広まる。できるだけ多くの人に高齢者や高齢社会について興味を持ってもらうことが目的なので再検討をお願いしたい。

地域支援係長)

今年度は予算の関係で対応しかねるが3年後の調査の時には検討したい。

(4) 意見交換(フリートーク)

グループホーム部会)

【災害時の対応について】

東日本大震災の時に現地のグループホームに行ったことをきっかけに非常時の横のつながりの大切さを実感した。グループホーム部会では来年度の動きについて検討しているが、災害時の対応に対し、他の部会が取り組んでいることなどを聞きたい。

施設部会)

・安城市と協定を結んでおり2~3年前から特別養護老人ホームは避難所としての避難訓練を実施している。

- ・施設によってはBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）を策定している所があるので見習いたい。
- ・11月22日に施設部会による研修会があるのでよろしければご参加ください。

高齢福祉課長)

一般避難所は公民館等の公共施設で、福祉避難所は障害者や要介護者の方で生活に補助や支援が必要な方の避難所で福祉センターに設置される。福祉避難所以上の補助や支援が必要な方は特定福祉避難所である施設に要請し受け入れをお願いすることになる。

地域支援係長)

施設部会と市で定期的に無線訓練をしている。

地域支援部会)

水害時は停電がキーポイント。発電機の有無など非常時のためのチェックをしてほしい。

会長)

重要なテーマなので今後も会議で取り上げていきたい。

訪問看護ネットワーク部会)

【福祉まつりの報告】

○来場者

栄養相談：午前5人、午後3人

握力・血圧測定：午前128人、午後97人

○療養相談

- ・自分が脳神経外科の手術があり不安で眠れないから傾聴してほしい。
- ・血圧がいつも低い、変動するが大丈夫か。
- ・何科に受診したらよいか。

○感想

- ・測定をするだけでなく色々な思いがあった。
- ・来場者、相談者共に年々増加しているので今後も継続していきたい。

連絡事項

事務局)

- 9月の推進会議の会議録で消防署との意見交換の部分が安城消防署により大幅に修正があったのでニュアンスが異なる部分は先に送った会議録を参考にしてください。

- 在宅医療・介護連携推進のための研修会

- ・テーマ 終末期の身体状況や医療処置の理解を深める (ヘルパーネット部会)
 日 時 令和元年10月23日(水) 午後1時30分から午後3時まで
 場 所 社会福社会館 会議室
 講 師 石川 規予美氏 (JAあいち中央訪問看護ステーション)
- ・テーマ: 人材が定着し、社員が自立的に働く組織のつくり方 (デイネット部会)
 日 時: 令和元年11月6日(水) 午後1時30分~午後3時30分
 場 所: 安城市民会館 2階 視聴覚室
 講 師: 梶川 洋氏 (カジカワ・コンサルティング・ラボ代表)
- ・テーマ 防災について 災害想定ゲーム KIZUKI (施設部会)
 日 時: 令和元年11月22日(金) 午後6時30分から午後8時30分
 場 所 安城市民会館 3階 大会議室
 講 師 寺西貞昭氏 (特定非営利活動法人 高齢者住まいの研究会理事長)

○あいちオレンジタウン構想「認知症に理解の深いまちづくりモデル事業」

事業所職員向け認知症対応力向上研修会

テーマ: 「その人を尊重したケア」~パーソンセンタードケアに焦点を当てて~

日 時: ①令和元年10月30日(水) 午後2時~3時30分

②令和2年1月29日(水) 午後1時30分~午後3時

場 所: 安城市民交流センター 2階多目的ホール

講 師: 横山 朋恵 氏 (八千代病院愛知県認知症疾患医療センター 認知症看護認定看護師)

次回 令和元年11月21日(木) 午後1時30分~3時 社会福社会館 会議室